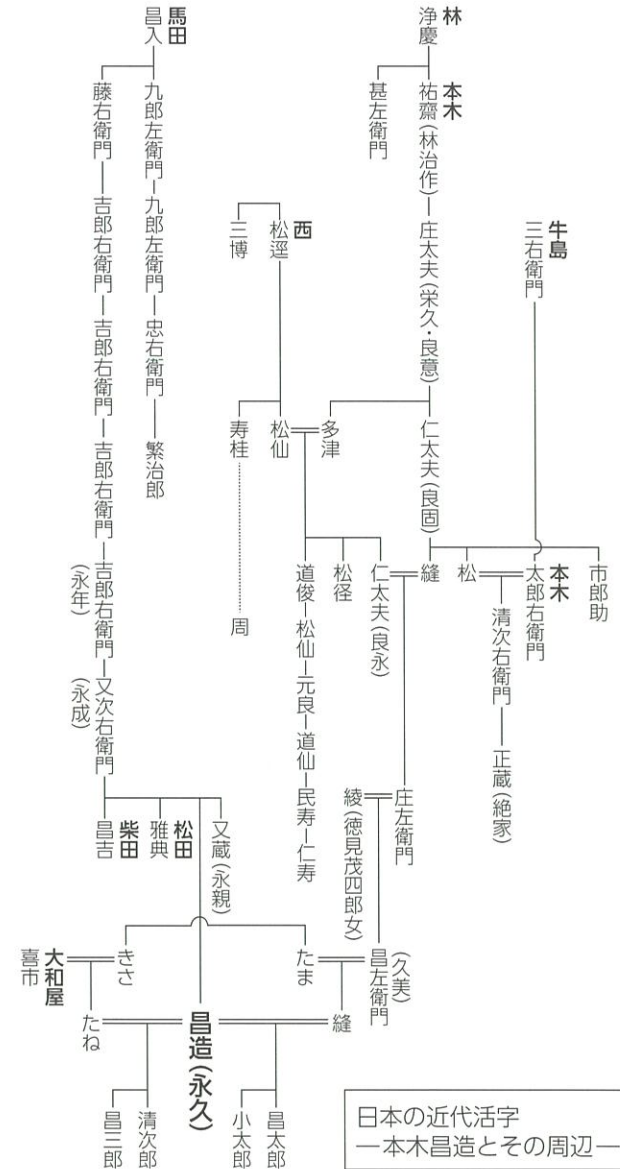


本木家関係系図



長崎市内 本木昌造 関連マップ

1 活版伝習所跡 (市立図書館地)

2 新町活版所跡 (長崎県市町村職員共済会館地)

3 鉄橋(くろがね橋) (本木昌造が日本で最初に架けた鉄橋)

4 本木昌造墓碑(大光寺)

5 本木昌造銅像 (諏訪神社長崎公園内)

6 本木種字(諏訪神社所蔵) (長崎歴史文化博物館にて展示)

7 本木昌造生家模型展示 (長崎市平和会館地下 長崎市歴史民俗資料館内)

8 長崎製鉄所 (現三菱重工長崎造船所) 本木昌造が初代頭取

9 本木昌造の蠟型電胎法・復刻活字展示

六代 本木昌造 (永久) 1824年 (文政7年) - 1875年 (明治8年) 52歳没

11歳で本木家の養子となり、オランダ通詞を務める。製鉄・造船・航海・土木技術等を習得し、多くの事業と関わりを持つ。一方、オランダ語、ロシア語、英語、フランス語にも堪能で、ロシア使節プチャーチン来崎の通訳や、ペリー2度目来日の際下田に派遣される。長崎製鉄所初代頭取時代には、浜町・築町間に日本最初の鉄橋を架橋、大阪高麗橋の鉄橋架け替えにも関与した。また、蒸気船の船長として活躍し、八丈島に漂着、9カ月間逗留するなど起伏にとんだ日々を送っている。

若い頃よりヨーロッパの活版印刷に深い関心を持ち、明治2年上海よりアメリカ人宣教師ウィリアム・ガンプルを招き、電気メッキの手法による「蠟型電胎法」という活字鑄造のための母型製作法を学ぶ。同年12月活版伝習所開校、翌3年新町活版所を開設し本格的活版印刷事業に取り組む。以後各地に派遣した高弟とともに、長崎新塾大阪活版所、横浜活版所、點林堂印刷所(京都)、小幡活版所(東京)と矢継ぎ早に印刷事業を展開し、明治日本の近代化に大きく貢献した。

【本木家による日本で初めての功績】

- 始祖 本木 祐 齋 (林 治作)
- 初代 本木 庄太夫 (栄久・良意) (1628 - 1697)
「解体新書」に先立つこと90年。1682年、オランダの解剖書をもとに解剖書を著述、平賀源内や林子平を教え、将軍に9度拝謁している。
- 二代 本木 仁太夫 (良圀) (1691 - 1749)
- 三代 本木 仁太夫 (良永) (1735 - 1794)
コペルニクスの地動説を初めて日本に紹介。「惑星」の命名者である。
- 四代 本木 庄左衛門 (正栄) (1767 - 1822)
英語・オランダ語・フランス語・ロシア語に通じ、我が国最初の英語辞書「諸厄利亞興学小笈」、最初の英和対訳辞書「諸厄利亞語林大成」を、また最初のフランス語辞書「私郎察辞範」を編纂。
- 五代 本木 昌左衛門 (久美・昌栄) (1801 - 1873)